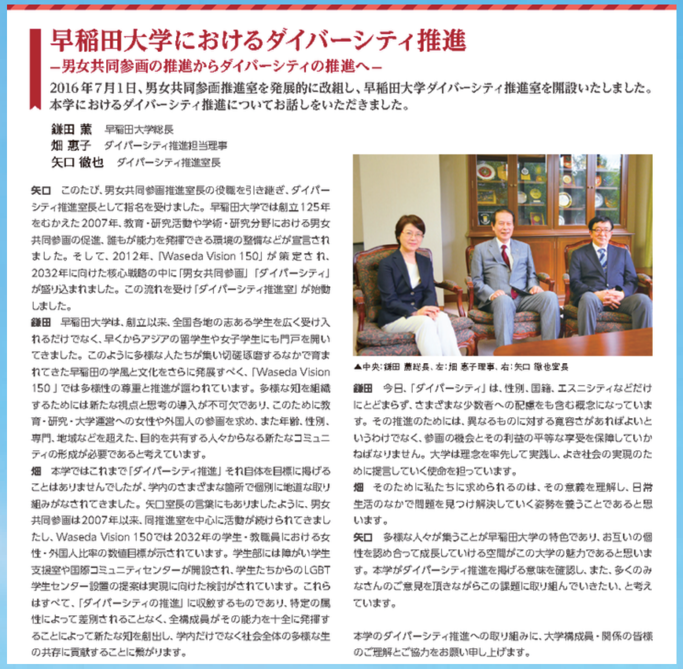
SANKAKU NEWS 10 YEARS

『さんかくニュース』で振り返るダイバーシティ推進室の取り組み

早稲田大学ダイバーシティ推進室では、本学のダイバーシティ推進に関する方針・取り組み・成果・イベント等を学内外へわかりやすく発信するため、ニュースレター『さんかくニュース』を毎年9月と3月の2回発行しています（第15号までは前身の男女共同参画推進室が発行、最新号は2026年3月発行の第35号）。これまでの『さんかくニュース』の記事をたどりながら、本学におけるダイバーシティ推進の歩みや、印象深い取り組みを振り返ります。

ダイバーシティ推進室開設　2016年9月

前身の男女共同参画推進室の取り組みを継続しつつ、障がい者支援やLGBTQ+支援等も含めて包括的に本学のダイバーシティを推進するための組織として「早稲田大学ダイバーシティ推進室」を開設しました。
本学の創立者・大隈重信は、建学当初から国際交流や女性教育を重視していました。その精神は、多様な背景を持つ人々がそれぞれの力を発揮し、活躍できる環境の実現を目指す、今日のダイバーシティ推進の理念にも受け継がれています。



早稲田大学におけるダイバーシティ推進
―男女共同参画の推進からダイバーシティの推進へ―

2016年7月1日、男女共同参画推進室を発展的に改組し、早稲田大学ダイバーシティ推進室を開設いたしました。本学におけるダイバーシティ推進についてお話しをいただきました。

鎌田 薫　早稲田大学総長
畑 惠子　ダイバーシティ推進担当理事
矢口 徹也　ダイバーシティ推進室長

矢口　このたび、男女共同参画推進室長の役職を引き継ぎ、ダイバーシティ推進室長として指名を受けました。早稲田大学では創立125年をむかえた2007年、教育・研究活動や学術・研究分野における男女共同参画の促進、誰もが能力を発揮できる環境の整備などが宣言されました。そして、2012年、「Waseda Vision 150」が策定され、2032年に向けた核心戦略の中に「男女共同参画」「ダイバーシティ」が盛り込まれました。この流れを受け「ダイバーシティ推進室」が始動しました。

鎌田　早稲田大学は、創立以来、全国各地の志ある学生を広く受け入れるだけでなく、早くからアジアの留学生や女子学生にも門戸を開いてきました。このように多様な人たちが集い切磋琢磨するなかで育まれてきた早稲田の学風と文化をさらに発展すべく、「Waseda Vision 150」では多様性の尊重と推進が謳われています。多様な知を組織するためには新たな視点と思考の導入が不可欠であり、このために教育・研究・大学運営への女性や外国人の参画を求め、また年齢、性別、専門、地域などを超えた、目的を共有する人々からなる新たなコミュニティの形成が必要であると考えています。

畑　本学ではこれまで「ダイバーシティ推進」それ自体を目標に掲げることはありませんでしたが、学内のさまざまな箇所で個別に地道な取り組みがなされてきました。矢口室長の言葉にもありましたように、男女共同参画は2007年以来、同推進室を中心に活動が続けられてきましたし、Waseda Vision 150では2032年の学生・教職員における女性・外国人比率の数値目標が示されています。学生部には障がい学生支援室や国際コミュニティセンターが開設され、学生たちからのLGBT学生センター設置の提案は実現に向けた検討がされています。これらはすべて、「ダイバーシティの推進」に収斂するものであり、特定の属性によって差別されることなく、全構成員がその能力を十全に発揮することによって新たな知を創出し、学内だけでなく社会全体の多様な生の共存に貢献することに繋がります。

▲中央：鎌田 薫総長、左：畑 惠子理事、右：矢口 徹也室長

鎌田　今日、「ダイバーシティ」は、性別、国籍、エスニシティなどだけにとどまらず、さまざまな少数者への配慮をも含む概念になっています。その推進のためには、異なるものに対する寛容さがあればよいというわけでなく、参画の機会とその利益の平等な享受を保障していかねばなりません。大学は理念を率先して実践し、よき社会の実現のために提言していく使命を担っています。

畑　そのために私たちに求められるのは、その意義を理解し、日常生活のなかで問題を見つけ解決していく姿勢を養うことであると思います。

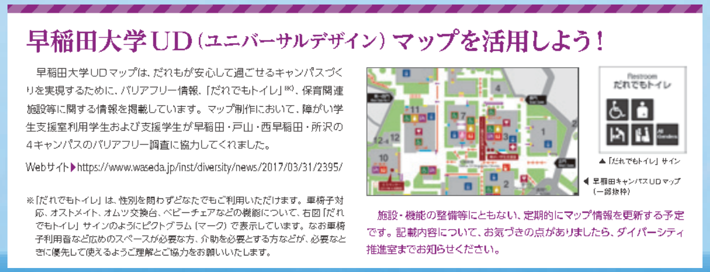
矢口　多様な人々が集うことが早稲田大学の特色であり、お互いの個性を認め合って成長していける空間がこの大学の魅力であると思います。本学がダイバーシティ推進を掲げる意味を確認し、また、多くのみなさんのご意見を頂きながらこの課題に取り組んでいきたい、と考えています。

本学のダイバーシティ推進への取り組みに、大学構成員・関係の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

SANKAKU NEWS
バックナンバーで振り返る
No.16

UDマップの発行　2017年9月

だれもが安心して過ごせるキャンパス環境の実現を目指し、バリアフリー設備や「だれでもトイレ」、保育関連施設などの情報をピクトグラムでわかりやすく掲載した「早稲田大学UDマップ」の発行を開始しました。掲載情報は毎年更新しており、2026年3月発行の最新版は第10版となります。



早稲田大学UD（ユニバーサルデザイン）マップを活用しよう！

早稲田大学UDマップは、だれもが安心して過ごせるキャンパスづくりを実現するために、バリアフリー情報、「だれでもトイレ」(※)、保育関連施設等に関する情報を掲載しています。マップ制作において、障がい学生支援室利用学生および支援学生が早稲田・戸山・西早稲田・所沢の4キャンパスのバリアフリー調査に協力してくれました。

Webサイト▶https://www.waseda.jp/inst/diversity/news/2017/03/31/2395/

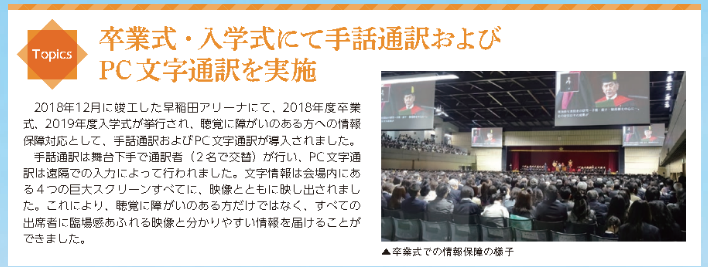
※「だれでもトイレ」は、性別を問わずどなたでもご利用いただけます。車椅子対応、オストメイト、オムツ交換台、ベビーチェアなどの機能について、右図「だれでもトイレ」サインのようにピクトグラム（マーク）で表示しています。なお車椅子利用者など広めのスペースが必要な方、介助を必要とする方などが、必要なときに優先して使えるようご理解とご協力をお願いいたします。

▲「だれでもトイレ」サイン
◀早稲田キャンパスUDマップ（一部抜粋）

施設・機能の整備等にともない、定期的にマップ情報を更新する予定です。記載内容について、お気づきの点がありましたら、ダイバーシティ推進室までお知らせください。

SANKAKU NEWS
バックナンバーで振り返る
No.18

式典等における情報保障　2019年9月



卒業式・入学式にて手話通訳およびPC文字通訳を実施

2018年12月に竣工した早稲田アリーナにて、2018年度卒業式、2019年度入学式が挙行され、聴覚に障がいのある方への情報保障対応として、手話通訳およびPC文字通訳が導入されました。

手話通訳は舞台下手で通訳者（2名で交替）が行い、PC文字通訳は遠隔での入力によって行われました。文字情報は会場内にある4つの巨大スクリーンすべてに、映像とともに映し出されました。これにより、聴覚に障がいのある方だけではなく、すべての出席者に臨場感あふれる映像と分かりやすい情報を届けることができました。

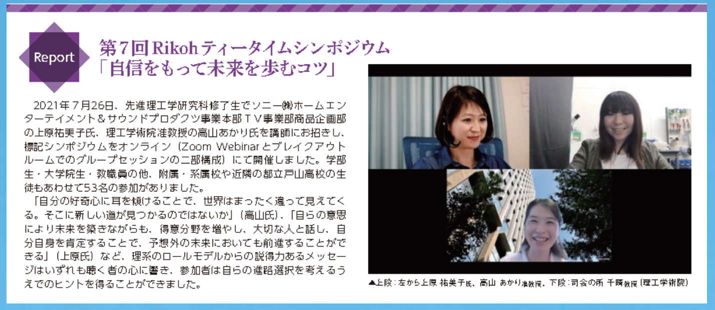
▲卒業式での情報保障の様子

早稲田アリーナで行われた2018年度卒業式、2019年度入学式において、情報保障の充実を目的として、手話通訳およびPC文字通訳を導入しました。式辞等の情報を視覚的にも理解しやすい形で提供できるよう環境整備を進めています。

SANKAKU NEWS
バックナンバーで振り返る
No.22

Rikohティータイムシンポジウム　2021年9月

主に理工系分野で研究者・技術者を目指して学業や研究に励む学生の皆さんが、将来のキャリアを具体的に描けるよう、企業や大学の第一線で活躍されている方々のお話を伺い、自身の進路やキャリア形成について考えるヒントを得るためのシンポジウムを開催しています。



第7回Rikohティータイムシンポジウム「自信をもって未来を歩むコツ」

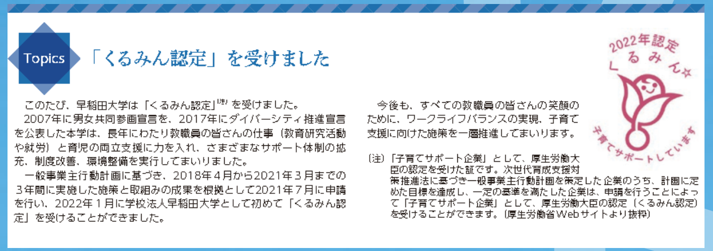
2021年7月26日、先進理工学研究科修了生でソニー㈱ホームエンターテイメント＆サウンドプロダクツ事業本部TV事業部商品企画部の上原祐美子氏、理工学術院准教授の高山あかり氏を講師にお招きし、標記シンポジウムをオンライン（Zoom Webinarとブレイクアウトルームでのグループセッションの二部構成）にて開催しました。学部生・大学院生・教職員の他、附属・系属校や近隣の都立戸山高校の生徒もあわせて53名の参加がありました。

「自分の好奇心に耳を傾けることで、世界はまったく違って見えてくる。そこに新しい道が見つかるのではないか」（高山氏）、「自らの意思により未来を築きながらも、得意分野を増やし、大切な人と話し、自分自身を肯定することで、予想外の未来においても前進することができる」（上原氏）など、理系のロールモデルからの説得力あるメッセージはいずれも聴く者の心に響き、参加者は自らの進路選択を考えるうえでのヒントを得ることができました。

▲上段：左から上原 祐美子氏、高山 あかり准教授、下段：司会の所 千晴教授（理工学術院）

SANKAKU NEWS
バックナンバーで振り返る
No.26

くるみん認定の取得　2022年3月



「くるみん認定」を受けました

このたび、早稲田大学は「くるみん認定」(注)を受けました。

2007年に男女共同参画宣言を、2017年にダイバーシティ推進宣言を公表した本学は、長年にわたり教職員の皆さんの仕事（教育研究活動や就労）と育児の両立支援に力を入れ、さまざまなサポート体制の拡充、制度改善、環境整備を実行してまいりました。

一般事業主行動計画に基づき、2018年4月から2021年3月までの3年間に実施した施策と取組みの成果を根拠として2021年7月に申請を行い、2022年1月に学校法人早稲田大学として初めて「くるみん認定」を受けることができました。

今後も、すべての教職員の皆さんの笑顔のために、ワークライフバランスの実現、子育て支援に向けた施策を一層推進してまいります。

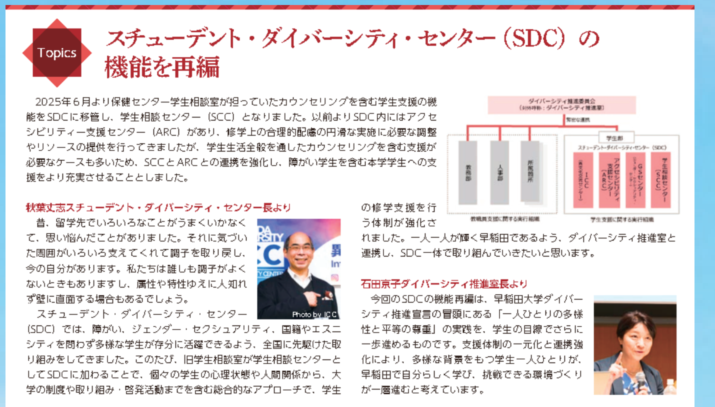
(注)「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受けた証です。次世代育成支援対策推進法に基づき一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業は、申請を行うことによって「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定（くるみん認定）を受けることができます。（厚生労働省Webサイトより抜粋）

2022年認定 くるみん 子育てサポートしています

2022年1月、厚生労働大臣による「子育てサポート企業」認定の証となる「くるみん認定」を取得しました。教職員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指し、子育て支援施策の充実ならびに働きやすい環境整備を推進しています。

SANKAKU NEWS
バックナンバーで振り返る
No.27

SDCとの連携　2025年9月



スチューデント・ダイバーシティ・センター（SDC）の機能を再編

2025年6月より保健センター学生相談室が担っていたカウンセリングを含む学生支援の機能をSDCに移管し、学生相談センター（SCC）となりました。以前よりSDC内にはアクセシビリティー支援センター（ARC）があり、修学上の合理的配慮の円滑な実施に必要な調整やリソースの提供を行ってきましたが、学生生活全般を通したカウンセリングを含む支援が必要なケースも多いため、SCCとARCとの連携を強化し、障がい学生を含む本学学生への支援をより充実させることとしました。

ダイバーシティ推進委員会（対外呼称：ダイバーシティ推進室）
緊密な連携
教務部
人事部
所属箇所
教職員支援に関する実行組織
学生部
スチューデント・ダイバーシティ・センター（SDC）
ICC（異文化交流センター）
アクセシビリティ支援センター（ARC）
GSセンター（ジェンダー・セクシュアリティ・センター）
学生相談センター（SCC）
学生支援に関する実行組織

秋葉丈志スチューデント・ダイバーシティ・センター長より

昔、留学先でいろいろなことがうまくいかなくて、思い悩んだことがありました。それに気づいた周囲がいろいろ支えてくれて調子を取り戻し、今の自分があります。私たちは誰しも調子がよくないときもありますし、属性や特性ゆえに人知れず壁に直面する場合もあるでしょう。

スチューデント・ダイバーシティ・センター（SDC）では、障がい、ジェンダー・セクシュアリティ、国籍やエスニシティを問わず多様な学生が存分に活躍できるよう、全国に先駆けた取り組みをしてきました。このたび、旧学生相談室が学生相談センターとしてSDCに加わることで、個々の学生の心理状態や人間関係から、大学の制度や取り組み・啓発活動までを含む総合的なアプローチで、学生の修学支援を行う体制が強化されました。一人一人が輝く早稲田であるよう、ダイバーシティ推進室と連携し、SDC一体で取り組んでいきたいと思います。

Photo by ICC

石田京子ダイバーシティ推進室長より

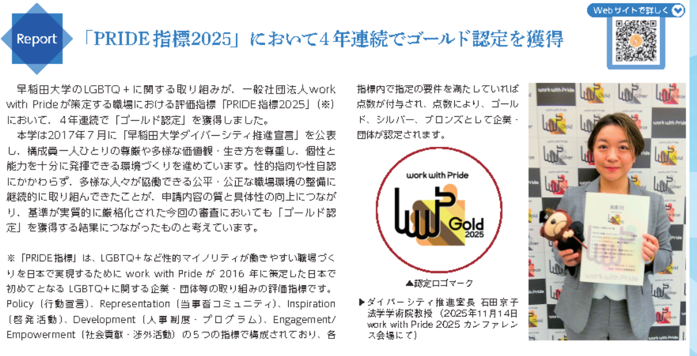
今回のSDCの機能再編は、早稲田大学ダイバーシティ推進宣言の冒頭にある「一人ひとりの多様性と平等の尊重」の実践を、学生の目線でさらに一歩進めるものです。支援体制の一元化と連携強化により、多様な背景をもつ学生一人ひとりが、早稲田で自分らしく学び、挑戦できる環境づくりが一層進むと考えています。

学生支援を担うスチューデント・ダイバーシティ・センター（SDC）は、学生相談センター、ジェンダー・セクシュアリティ・センター、アクセシビリティー支援センター、異文化交流センターの4部門で構成され、ダイバーシティ推進室とも密接に協働しながら、その取り組みを展開しています。

SANKAKU NEWS
バックナンバーで振り返る
No.34

PRIDE指標ゴールド認定の取得　2026年3月

一般社団法人work with Prideが策定する、職場におけるLGBTQ＋への取り組み評価指標「PRIDE指標」において、2022年度から2025年度まで4年連続で「ゴールド認定」を取得しています。性的指向や性自認に 関わらず、多様な人々が互いを尊重しながら協働できる公平・公正な職場環境の整備に努めています。



「PRIDE指標2025」において4年連続でゴールド認定を獲得

Webサイトで詳しく

早稲田大学のLGBTQ＋に関する取り組みが、一般社団法人work with Prideが策定する職場における評価指標「PRIDE指標2025」（※）において、4年連続で「ゴールド認定」を獲得しました。

本学は2017年7月に「早稲田大学ダイバーシティ推進宣言」を公表し、構成員一人ひとりの尊厳や多様な価値観・生き方を尊重し、個性と能力を十分に発揮できる環境づくりを進めています。性的指向や性自認にかかわらず、多様な人々が協働できる公平・公正な職場環境の整備に継続的に取り組んできたことが、申請内容の質と具体性の向上につながり、基準が実質的に厳格化された今回の審査においても「ゴールド認定」を獲得する結果につながったものと考えています。

※「PRIDE指標」は、LGBTQ＋など性的マイノリティが働きやすい職場づくりを日本で実現するために work with Pride が 2016 年に策定した日本で初めてとなる LGBTQ＋に関する企業・団体等の取り組みの評価指標です。Policy（行動宣言）、Representation（当事者コミュニティ）、Inspiration（啓発活動）、Development（人事制度・プログラム）、Engagement/Empowerment（社会貢献・渉外活動）の5つの指標で構成されており、各指標内で指定の要件を満たしていれば点数が付与され、点数により、ゴールド、シルバー、ブロンズとして企業・団体が認定されます。

▲認定ロゴマーク

▶ダイバーシティ推進室長 石田京子 法学学術院教授（2025年11月14日 work with Pride 2025 カンファレンス会場にて）

SANKAKU NEWS
バックナンバーで振り返る
No.35

SANKAKU NEWS BACK NUMBER

『さんかくニュース』のバックナンバーは、
ダイバーシティ推進室のWebサイトにてご覧いただだけます。